

### 3) 食品中における特定原材料の検査結果 (平成 18 年度～令和 4 年度)

中原優子

#### はじめに

食物を摂取した際、身体が食物に含まれるたんぱく質等 (アレルゲン) を異物として認識し、自分の体を過剰に防御することで不利益な症状を起こすことがあり、これを食物アレルギーという。症状は皮膚や呼吸器、消化器、神経など身体の様々な臓器に出現し、時には複数の臓器に症状が出現、さらに急激な血圧低下や意識障害 (アナフィラキシーショック) により、生命の危険にまで及ぶことがある<sup>1)</sup>。

この食物アレルギーをもつ消費者の健康被害の発生を未然に防ぐ目的で、平成 13 年 4 月に厚生労働省は卵、乳、小麦、そば及び落花生の 5 品目を特定原材料として加工食品への表示を義務付けた<sup>2)</sup>。平成 20 年 6 月にはえび、かにの 2 品目を追加<sup>3)</sup>、さらに令和 5 年 3 月にはくみの表示義務化が公布され、令和 7 年 4 月から完全施行される予定である<sup>4)</sup>。

当所では平成 16 年度から食品中の特定原材料について検査を実施してきた。今回は平成 18 年度から令和 4 年度に県内で取去された食品について実施した検査結果について報告する。

#### 実験方法

##### 1. 対象

平成 18 年 4 月から令和 5 年 3 月までに県内の保健所から取去された食品延べ 593 検体とした。

いずれの検体にも原材料表示に検査対象とする特定原材料の記載は無かった。

##### 2. 試薬

卵、乳、小麦、そば及び落花生

モリナガ FASPEK エライザ II (森永生科学研究所),  
FASTKIT エライザ Ver.III (日水製薬株式会社)

えび、かに

甲殻類キット II 「マルハニチロ」(マルハニチロ株式会社)

FA テスト EIA-甲殻類 II (日水製薬株式会社)

##### 3. 測定機器

マイクロプレートリーダー : SUNRISE REMOTE (TECAN 社製)

マイクロプレートウォッシャー : Wellwash Versa (Thermo Scientific 社製)

#### 4. 方法

通知法<sup>5)</sup>に従い、スクリーニング検査を ELISA 法による定量検査法にて行った。

各検査で上記 2 に示す 2 種類の検査キットを用いて、どちらか一方または両方のキットで特定原材料由来たんぱく質を 10 µg/g 以上検出したものを陽性、両方のキットで 10 µg/g 未満のものを陰性と判定した。

#### 結果

各検査項目の食品分類別の検体数及び陽性数を表 1 に示す。

表 1 各検査項目の食品分類別の検体数及び陽性数

検査項目	食品分類	検体数	陽性数
卵	菓子類	74	2
	めん類	12	2
	魚肉ねり製品	1	
	そうざい	3	
	その他	7	
	計	97	4
乳	菓子類	83	6
	めん類	4	
	魚肉ねり製品	1	
	そうざい	1	
	その他	7	
	計	96	6
小麦	菓子類	46	3
	野菜果物乾燥品及び加工品	11	
	穀類加工品	9	
	めん類	2	
	冷凍食品	2	
	その他	4	
計	74	3	
そば	めん類	52	
	菓子類	26	1
	野菜果物乾燥品及び加工品	7	
	そうざい	3	
	穀類加工品	3	
	その他の食品	4	
計	95	1	
落花生	菓子類	53	1
	そうざい	10	
	豆腐及びその加工品	2	
	めん類	2	
	野菜果物乾燥品及び加工品	2	
	その他	4	
計	73	1	
えび・かに	魚肉ねり製品	123	
	そうざい	15	
	魚介類加工品	5	
	菓子類	3	
	食肉加工品	2	
	冷凍食品	2	
	その他	8	
	計	158	0
合計	593	15	

検体数は卵 97 検体, 乳 96 検体, 小麦 74 検体, そば 95 検体, 落花生 73 検体, えび・かに 158 検体であった。陽性と判定された検体は 15 検体であり, 陽性率は高いほうから順に乳 (6.3%), 卵 (4.1%), 小麦 (4.1%), 落花生 (1.4%), そば (1.1%) の結果となった。えび・かにの検体では陽性の検体は無かった。

次いで, 食品分類ごとによる検体数とその陽性数を表 2 に示す。

表 2 食品分類別の検体数及び陽性数等

食品分類	検体数	割合 (%)	陽性数
菓子類	285	48.1	13
魚肉ねり製品	125	21.1	
めん類	72	12.1	2
そうざい	32	5.4	
野菜果物乾燥品及び加工品	22	3.7	
その他の食品	16	2.7	
穀類加工品	12	2.0	
冷凍食品	7	1.2	
魚介類加工品	7	1.2	
かん詰・びん詰食品	3	0.5	
味噌	2	0.3	
豆腐及びその加工品	2	0.3	
食肉加工品	2	0.3	
アイスクリーム類 氷菓	1	0.2	
弁当	1	0.2	
ソース類	1	0.2	
調味料	1	0.2	
その他の野菜・果物の加工品	1	0.2	
醤油	1	0.2	
	593		15

最も多い検査検体は菓子類 (48.1%) が全体の半数近くを占め, 次いで魚肉練り製品 (21.1%), めん類 (12.1%) の順となった。

陽性数は菓子類が 13 検体と圧倒的に多く, えび・かに以外の 5 項目全てにおいて陽性と判定された検体があり, 菓子の検体数 (285 検体) に対する陽性率は 4.6% となった。また, めん類 2 検体で陽性となり, いずれも卵の検査にて判明したものであった。

検査数全体に対する陽性の検体数の割合は 2.5% であった。

#### 考察とまとめ

平成 18 年度から令和 4 年度までに当所で実施した, 県内で製造あるいは流通していた食品について, 特定原材料 7 品目の検査結果を報告した。特定原材料の記載の無い食品延べ 593 検体についてスクリーニング検査を実施, 15 検体が陽性と判定され, うち 13 検体が菓子類, 2 検体がめん類に分類される食品であった。これらの食品は, 適切な表示がなされていない可能性があることが分かった。

消費者庁は 3 年に一度, 食物アレルギーに関連する食品表示に関する全国的な調査研究を行い, 結果を公表し

ている<sup>6)9)</sup>。令和 3 年度の結果では, 即時型食物アレルギーの原因食物として最も割合が高かったのは, 鶏卵 (33.4%), 次いで牛乳 (18.6%), 木の実類 (13.5%) であった。症例数全体に占める特定原材料 7 品目によるものは 71.3% と高い割合を示していた。加えて, 同年度において, 誤食による即時型食物アレルギーの健康被害のうち, 7.0% が食品表示ミスに起因するものであった。平成 27 年度の調査では 3.0%, 平成 30 年度は 2.6% と, 特定原材料の表示義務化から 20 年以上が経過し, かつ現在においても食品表示法に基づく管理や事業者への周知啓発がなされているにも関わらず, 食品表示ミスによる誤食事例は一定の割合で発生していることがうかがえる。

また, 消費者庁は, 従前より症例数等が増加したことを受け, カシューナッツを特定原材料に加える検討に着手した<sup>10)</sup>。これら食品表示規制の動向を踏まえながら, 今後も検査を継続して行うことは, 食物アレルギーによる健康被害を防止し, 県民の食の安心・安全を守るうえで大変重要であると考えられる。

#### 文 献

- 1) 一般社団法人日本アレルギー学会, 厚生労働省: アレルギーポータル アレルギーについて, 食物アレルギー <https://allergyportal.jp/knowledge/food/> (2023 年 6 月閲覧)。
- 2) 厚生労働省医薬局食品保健部長通知: 食発第 79 号, 食品衛生法施行規則及び乳及び乳製品の成分規格等に関する省令の一部を改正する省令の施行について (2001)。
- 3) 厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知: 食安発第 0603001 号, 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令の施行について (2008)。
- 4) 消費者庁次長通知: 消食表第 102 号, 「食品表示基準について」の一部改正について (2023)。
- 5) 消費者庁次長通知: 消食表第 139 号, 食品表示基準について, 別添アレルギーを含む食品の検査方法 (2015)。
- 6) 消費者庁: 平成 24 年度即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査報告書 (2013)。
- 7) 消費者庁: 平成 27 年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書 (2016)。
- 8) 独立行政法人国立病院機構相模原病院: 平成 30 年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書 (2019)。
- 9) 消費者庁: 令和 3 年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書 (2022)。

- 10) 消費者庁：第 5 回食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議（2023 年 6 月 14 日）会議資料  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/meeting\\_materials/review\\_meeting\\_005/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/meeting_materials/review_meeting_005/)（2023 年 6 月閲覧）。
- 11) 浜崎志帆：福岡市保健環境研究所報，**44**，118-120（2019）。
- 12) 鈴木 郷，西村幸江，野口辰美：宮崎県衛生環境研究所年報，**31**，76-78（2020）。
- 13) 木本佳那，大貝真実，堀田彩乃，荻野賀世，新藤哲也，笹本剛生：東京都健康安全研究センター年報，**72**，205-210（2021）。
- 14) 古谷貴志，新谷依子，佐藤 環，岡元冬樹，堀 就英：福岡県保健環境研究所年報，**49**，97-100（2022）。